

企業就職に向けたアスリートのセカンドキャリアサポートに関する研究 A Study of Second Career Support for Athletes to Get Jobs at Companies

1K08B094-7 佐藤 友香

指導教員 主査 原田宗彦先生 副査 間野義之先生

【緒言】

Jリーガーのセカンドキャリアに関する実態調査によると、Jリーグでは入団後4年で選手の50%が引退し、その多くはセカンドキャリアとしてサッカー関連の職業を希望するが、引退後にサッカー界に残留できる選手は約3割である。選手やコーチの労働需要に限界があることはサッカーに限られたことではなく、行っていたスポーツ関連の職業以外の再就職先の模索は、今後アスリートのセカンドキャリアを充実させるための課題の一つである。よって本研究では、企業就職に向けたアスリートのセカンドキャリアサポートを取りあげる。アスリートのほとんどは新卒としての選考に臨めず、また中途採用としては、アスリートは就業経験がないため企業は即戦力として期待できない。以上より、アスリートは企業就職に関して一般の人に比べ不利な状況にあると言える。アスリートはスポーツに時間を費やしていることで社会一般の知識が乏しいというネガティブなイメージが、企業就職における困難さに繋がっている。しかしアスリートは、一般的な知識には乏しくとも、競技活動を通して社会で活躍しう能力を培っていると筆者は考える。

【目的】

本研究は、アスリートがセカンドキャリアとして一般企業に就職するための施策を検討するために、アスリートが社会に出て活躍しう能力を保持していることを明らかにし、現在どのようなキャリアサポートが行われているのかを把握し、これらの調査を踏まえて、一般企業就職に向けたアスリートのキャリアサポートの今後の方策について提言することを目的とする。

【方法】

本研究では、先行研究と先行調査のレビューと、インタビュー調査を用いる。本文では、アスリートの企業への就職事例やアスリートの能力に関する先行研究等でアスリートが保持している能力について、また海外のキャリアサポート事例研究を参考に、日本で現在行われてい

るキャリアサポートについてそれぞれ検討する。また、JOCのアスナビというキャリアサポートについて、アスナビを介してアスリートを採用した企業3社に対してインタビュー調査を行い、

- ①企業とアスリートのマッチングの場としてのアスナビの有効性
 - ②アスリートが安心して身を置ける環境としての企業の実態の有効性
 - ③企業が持つ人的資源としてのアスリートへのイメージの実態
- を明らかにした。

【結果・考察】

調査結果より、筆者は、企業就職に向けたキャリアサポートに求められることとして、

- ①アスリートと企業のマッチングの場の創出
- ②アスリートが安心して身を置く環境の提供
- ③アスリートへのキャリア教育

の三点を挙げる。まず前提としては、選手自身がキャリアプランを考えながら競技生活を行うことがある。アスナビのようなマッチングの制度が充実したとして、企業に採用してもらえるかどうか、更に根本的にはマッチングの場に参加するかどうか、選手自身の意識で決まることである。そのためにキャリア教育は必須である。

マッチングの場として最近できたばかりのアスナビの調査の結果からは、セカンドキャリアサポートまでを見据えたアスリートと企業のマッチングの場や、選手が安心して身を置く環境を充足させるためには、企業の採用ニーズと照らし合わせたアプローチ先の選定や、アスリートの引退後の採用までというコンセプトの周知徹底が大切であることがわかった。また、引退後であってもアスリートが培ってきた経験や能力を高く評価し、人的資源としても好感を示す企業もあり、引退後のアスリートに限定したマッチングの場を作ることも可能であると考えられる。